

# I 令和4年度 事業計画

## 1. 基本方針

新型コロナウイルス感染が猛威を奮い、感染拡大予防を最優先する日々が始まって2年を越えようとしています。感染拡大状況が日々刻々と変化するなか、対面でのイベントや見学会等は予定変更やキャンセルが続き、図らずもオンライン開催を基本とする対応力、適応力は一段と強化されました。介助犬の新規希望者への対面での相談・体験会や体験入所・訪問調査・訓練が予定通り実施できないことは大変歯がゆいのですが、それでも何とか歩みを止めることなく、代替犬貸与については不十分ながらも対応してまいりました。

この2年、事業のあり方が大きく問われたことを契機に、令和3年度から本格的に取り組みを始めた当会の「ミッション、ビジョン、バリュー」を、職員全員と検討・議論し、新たなスタートを遂げるべくホームページでの発信についても検討してまいりました。これまでも、当会の事業理念については「人にも動物にもやさしく楽しい社会をめざして」としてきましたが、そのうえで、私たちの目標については「介助犬とともにいつでもどこでも一緒に暮らせる地域共生社会の実現」、基本姿勢は「犬の可能性を信じ、一人ひとりのニーズに寄り添って歩む」、そして社会的役割と価値については「人と犬を繋ぎ、和を創るプロフェッショナル集団である」とさせていただきました。

補助犬法上の介助犬に限らない「介助犬」のニーズが高まるなか、わが国では初となる「裁判所への付添犬派遣事業」をはじめ、他団体、他機関との提携によって達成できる成果はとて大きく、更なる提携・連携を拓げていく力をつけていく所存です。

これまで通りの事業展開ができなかったことで、私たち自身のあるべき姿を考える絶好の機会となりました。介助犬シンシアの活動を契機とした身体障害者補助犬法の制定は、歴史に残る大きな節目の出来事だったと思います。しかし一方で、法制度の枠に捉われず、私たちは社会ニーズの変化に即した事業にも積極的に取り組むことが求められていると認識しております。

世界がピンチに陥っている今だからこそ、人と犬をつなぐ力を持つ私たちは、一人でも多くの、課題を抱えた人と子供たちを笑顔に元気にする意欲を新たに、今後とも、日々の活動に積極的な姿勢をもって取り組んで参りたいと思います。

理事長 伊藤 利之

## 2. 取組事項

### 1. 介助犬育成事業

リハビリテーション専門職と連携を図り、介助犬希望者に対して個々の障がいにあった介助犬を提供する。介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～における体験・合同訓練および在宅訓練の指導を行う。

#### (1) 肢体不自由者に対する介助犬貸与

介助犬を育成し、2～4名の肢体不自由者(新規1～2名、代替え0～2名)に対し介助犬の貸与を目指す。

#### (2) 犬の飼育及び訓練

① 31頭(内、新規訓練犬23頭)の訓練犬に対し、評価及び訓練を実施する。

② パピーに対する訓練及びパピーホームボランティアに対して預かり訓練、訪問指導を実施する。

#### (3)繁殖

① 1～2回の出産を行い、6～12頭のパピーを確保する。

② Career Dogs Australia よりパピー6頭と凍結精液を導入する。

③ 11頭の繁殖犬(雄3頭、雌8頭)を確保する。(新規4頭)

④ 犬山動物総合医療センターの協力のもと、1～2回人工授精手術を実施する。

⑤ 岐阜大学へ凍結精液の作成を依頼する。

#### (4) 介助犬使用者に対する継続指導

介助犬使用者16名に対し、継続指導を行う。

#### (5) 介助犬使用者に対する就労・継続支援

介助犬使用者の就労希望に対し、就労支援機関と連携を取りながら個々に合わせた就労・継続支援を行う。

### 2. 普及啓発・広報活動

介助犬・身体障害者補助犬法の認知度向上および寄付収入確保を目的に、普及啓発・広報活動を展開する。

介助犬希望者・個人支援者・支援団体企業、マスメディアなど、対象者ごとに必要な情報が提供出来るよう、情報の内容・形態、広報媒体の最適化を図る。

#### (1) 普及啓発イベント・講演会の開催

① 介助犬フェスタ2022を開催する。

5月22日(日)にオンラインにて開催予定。新しい取り組みとしてVRを利用し、広く一般に介助犬普及啓発、協会の活動紹介を行う場とする。

② 介助犬キャラバンでの活動を行う。

介助犬の啓発と介助犬使用者の発掘を目的にしたキャラバン隊を組み、年間で一定地域を回りながら、介助犬の認知度向上を目指す。

第1回目の地域は、東北6県(宮城・岩手・青森・秋田・山形・福島)とし、6月頃に実施する。

③ 啓発活動の継続実施

・イベント／講演会

社会情勢に応じて、対面型とオンライン型のイベント実施を継続する。オンライン型イベントを積極的に導入・活用し、全国にも配信を拡大する。

・肢体不自由者への啓発

以下の福祉機器展にて啓発を行う。

ウェルフェア 2022 : 5月26日(木)～28日(土)開催予定 (吹上ホール)

ヨコハマヒューマンテクノランド 2022 : 開催日・会場程未定

バリアフリー2022 : 4月20日(水)～22日(金)開催予定 (インテックス大阪)

国際福祉機器展 2022 :

リアル展示 10月5日(水)～7日(金) 東京ビックサイト

WEB展示 9月5日(月)～11月7日(月)特設サイト

・「はたらくワンワンランド」参加

「ガンバレ！介助犬！JA 共済はたらくワンワンランド」へ参加する。

・企業連携企画の実施

菅野智之投手(介助犬サポート大使)および読売巨人軍とタイアップし、チャリティ商品の企画・販売等を行うことで介助犬の認知度向上につなげる。

他企業・団体とのタイアップの拡大を図る。

(2)PR 犬の育成・訓練

啓発活動を行うPR 犬の育成・評価、訓練を行う。

(3)マスコミ対応

新聞やテレビ番組などのメディアに対し映像・写真素材の提供を行う他、積極的にメディア露出できるようプレスリリースを行っていく。各種メディア掲載実績をホームページで公開する。

(4)会報誌・ホームページ、その他制作物を活用した広報展開

魅力ある会報紙面・ホームページ、制作物を作成し、支援者獲得、チャリティグッズ販売促進へ繋げる。2022年2月にリニューアルしたホームページの充実を図る。

(5)SNS の活用

Twitter / Facebook / Instagram / YouTube / note の各特性を活かした情報を発信し、支援者とのコミュニケーションを図り新たな支援者獲得を目指す。

(6)リハビリテーション専門関連学会、獣医療関連学会へのブース出展等

リハ専門職の介助犬への理解を深めるため、関連学会へのブース出展、デモンストレーション等の機会を得る。

【学会一覧】

参加予定

学会名	日程	開催地
第57回 日本脊髄障害医学会	2022年11月17日(木)～18日(金)	パシフィコ横浜(神奈川県)
第14回 日本身体障害者補助犬学会	未定	未定
第10回 慢性期リハビリテーション学会	未定	未定

参加検討中

学会名	日程	開催地
第59回 日本リハビリテーション医学会	2022年6月23日(木)～25日(土)	パシフィコ横浜(神奈川県)
第56回 日本作業療法学会	2022年9月16日(金)～18日(日)	国立京都国際会館(京都府)
第57回 日本理学療法学会学術研修大会	2022年7月9日(土)～10日(日)	富山国際会議場(富山県)

(7) ボランティア向け講習会・交流会等を計画する。

### 3. 公益的な活動

- (1) 聖マリアンナ医科大学病院へ3頭目の勤務犬貸与、およびハンドラー養成を行う。
- (2) DI犬を導入している以下の機関へのハンドラー指導を継続的に行う。  
機関名: 聖マリアンナ医科大学病院、楓の丘こどもと女性のクリニック
- (3) 聖マリアンナ医科大学病院、箱根病院、多摩病院、野のすみれクリニック、千葉リハビリテーションセンター、名古屋市中心児童相談所一時保護所にてDI活動を実施する。
- (4) With You プロジェクトとして、障害児・者等のいる家庭に対して、自宅で役立つキャリアチェンジ犬の譲渡を行う。
- (5) 子ども支援センターつなぐからの付添犬派遣要請に応じる。
- (6) DIを希望する専門職・専門機関からの相談に応じる。

※DI: Dog Intervention (特別に評価及び訓練をした犬を医療現場等に介入させること)

### 4. 相談事業

介助犬希望者がより正確な情報を得られるように、体験会・相談会、体験入所等のプログラムの充実を図る。

- (1) 介助犬希望者
  - ① 介助犬に関心のある障がい者を対象に対面、またはオンライン開催にて相談会を実施する。
  - ② 介助犬希望者宅への訪問相談・調査を実施する。
  - ③ 介助犬希望者・待機者を対象に体験入所等を実施する。

## 5.調査研究

障がい者が介助犬等との生活をより円滑に送るための調査研究を行う。

### (1) 各学会への参加、演題登録

第14回日本身体障害者補助犬学会への参加、学会団体会員として一般演題発表等を行う。

### (2) リハ専門職等との補助具の開発

横浜市総合リハビリテーションセンター等のリハビリテーション工学士・企業と介助犬使用に関する補助具の研究を行う。

## 6.関係団体協力

良質な介助犬を育成するため、関係団体と訓練犬確保、繁殖情報の交換や繁殖協力関係の強化を図る。その他犬の活躍の場となる関係団体からの協力要請に応じる。

### (1) 補助犬育成団体との連携

① 日本盲導犬協会、北海道盲導犬協会、関西盲導犬協会、九州盲導犬協会、東日本盲導犬協会等との繁殖、キャリアチェンジ犬の導入、研修先としての団体間の関係継続に努める。

② 日本身体障害者補助犬学会へ団体会員として加盟する。

### (2) 諸外国の補助犬団体との連携強化

諸外国の補助犬団体と、介助犬の育成や繁殖事業に関する交流を充実させる。

① ADI(Assistance Dogs International)認可のための査察

② Career Dogs Australia と犬の導入等

### (3) 医療・福祉・行政等との連携強化

## 7.補助・助成申請

### (1) 令和4年度

#### 【決定】

① 全国生活協同組合連合会:250万円

埼玉県民共済生活協同組合:200万円

事業名:犬の介在による、生き辛さを抱える子どもたち・障がい者の支援事業

② シンシア基金:20万円

事業名:介助犬育成・普及活動に携わる人材育成のためのオンラインセミナー開催

#### 【申請中】

① 中部ウォーカーソン:60万円

事業名:日本介助犬協会リニューアル WEB サイトにおける活動啓発コンテンツの作成

#### 【申請予定】

① 愛知県:12万円(予定)

事業名:愛知県内における介助犬啓発事業

② 長久手市ふるさと応援活動支援事業:申請額未定

③ デンソーグループはあとふる基金(使途指定寄付):申請額未定

## 8. 管理・運営

### (1)理事会・評議員会の開催

社会福祉法その他法令に沿った法人運営を適切に行う。理事・監事および評議員等他役員改選に必要な手続きを進める。

### (2) 寄付収入および賛助会員数増加施策の検討・実施

安定した事業運営基盤の確立に向け、寄付収入および賛助会員数増加のためのファンドレイジング施策・コミュニケーション施策を検討、実施する。

① 法人会員・法人支援者へのアプローチ回数を増やし、新規支援の獲得を目指す。

② 主にマンスリー会員数・口座振替会員の増加を目指し賛助会員の新規入会促進施策を検討、実施する。既存会員の継続のため会報やメールでのニュースレター配信等を通じた会員とのコミュニケーションの充実を図る。

③ 配信等を通じた会員とのコミュニケーションの充実を図る。

④ 収益事業を充実させ、社会福祉事業へ組み入れる寄付額の最大化を目指す。

⑤ イベント・街頭募金活動等の件数減少やキャッシュレス時代を鑑みた収入の確保を検討する。

⑥ 寄付型ラッピング自動販売機の導入を促進する。

### (3)年間行事の実施

①「慰霊祭」を10月29日(土)に実施する。

②「使用者の集い」を10月30日(日)に実施する。

### (4)計画的な施設保守・営繕の検討・実施

介助犬総合訓練センターの建物・備品維持保全にかかる新たな改修計画策定に取り組む。

保有車両について、最適及び計画的な保守に努める。

### (5)業務効率化とコストダウン施策の検討・実施

限られた経営資源を有効活用するため、業務の見直しを図り業務効率を向上する。併せて、経費節減施策を検討、実施する。

### (6)労働環境の整備

職員の働きやすさを実現するため、就業環境の見直し、整備を行う。

### (7) 目標設定・人事評価システムの活用

## 9.人材育成・研修

### (1) 訓練技術向上

飼育管理担当者、パピー担当者等のすべての訓練部職員がOJTにより犬のハンドリング技術の向上を目指す。また、目指すゴールの明確化、訓練犬の評価方法の見直しを図り、訓練

技術向上に努める。

① 訓練士の育成

訓練担当者への OJT の他、合同訓練の見学の機会を与え、目指すゴールの共有化を図る。

② Ultimate Dog Training Japan, Marina Rodriguez 氏よりトレーニング研修を受ける。

(2) 研修生制度

① 研修生制度を再開する。

② 短期間オンラインセミナーを実施する。

(3) 研修等の受講

① リハビリテーション関連、犬関連に関するセミナー等を受講する。

② 普及・広報活動に必要なセミナー等を受講する。

③ 目標設定研修を引き続き実施する。

④ 階層別研修を行う。